

経営比較分析表（平成29年度決算）

香川県三豊市 西香川病院

| 法適用区分 | 業種名・事業名 | 病院区分 | 類似区分 | 管理者の情報 |
|--------------|-----------------------|---------|---------------|------------|
| 当然財務 | 病院事業 | 一般病院 | 100床以上～200床未満 | 非設置 |
| 経営形態 | 診療科数 | DPC対象病院 | 特殊診療機能 ※1 | 指定病院の状況 ※2 |
| 指定管理者(利用料金制) | 3 | - | ド訓 | 臨 |
| 人口(人) | 建物面積(m ²) | 不採算地区病院 | 看護配置 | |
| 66,642 | 11,197 | 非該当 | 2.5:1 | |

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

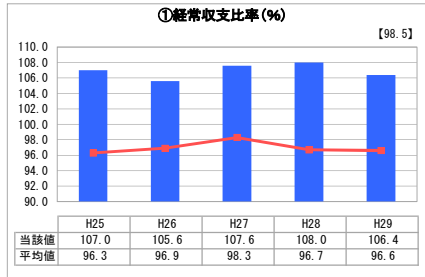
| 許可病床(一般) | 許可病床(療養) | 許可病床(総核) |
|----------|-----------|-------------|
| - | 90 | - |
| 許可病床(精神) | 許可病床(感染症) | 許可病床(合計) |
| 60 | - | 150 |
| 稼働病床(一般) | 稼働病床(療養) | 稼働病床(一般+療養) |
| - | 90 | 90 |

グラフ凡例

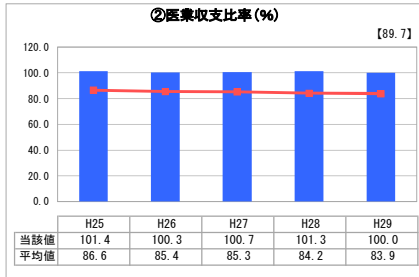
- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)

【】 平成29年度全国平均

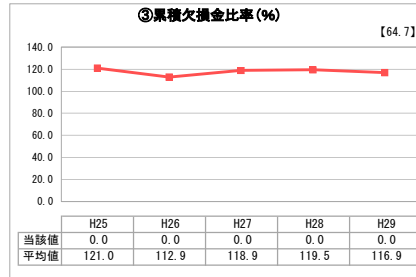
1. 経営の健全性・効率性



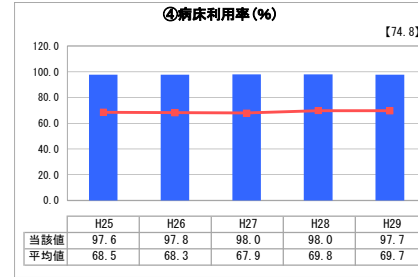
「経常損益」



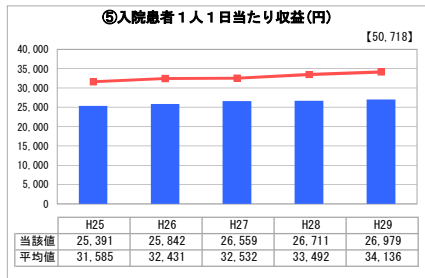
「医業損益」



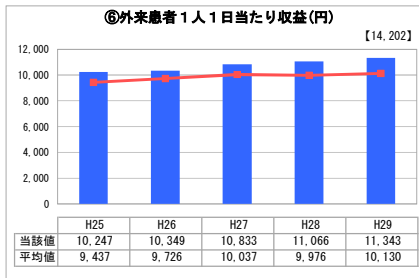
「累積欠損」



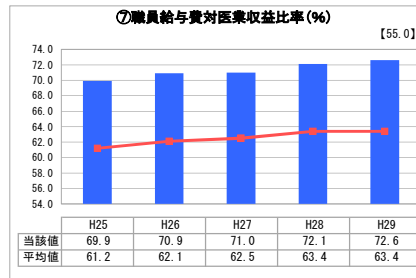
「施設の効率性」



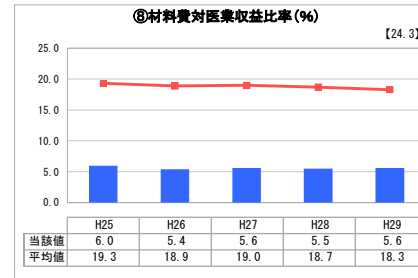
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

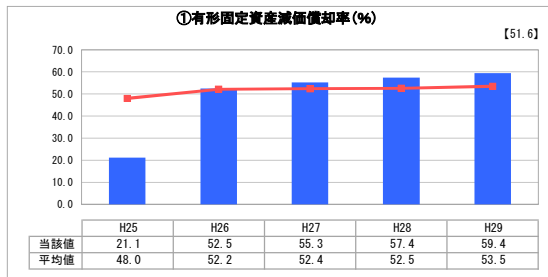


「費用の効率性①」

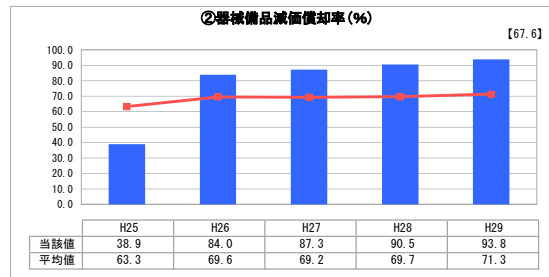


「費用の効率性②」

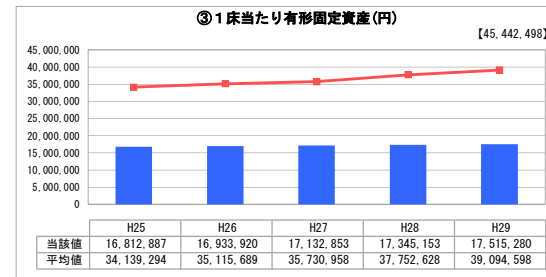
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

県より認知症疾患医療センターの指定を受け、相談窓口を設置し専門的診断・治療やこころのケアを行っている。また、講演会やイベントを通じて認知症への理解・予防・対応、また患者やその家族等への理解を深めたらう取組を行っている。精神科においては、在宅や施設での対応が困難な認知症患者に対しての一時的入院治療を提供し、患者が住み慣れた地域での在宅復帰を支援し、地域の認知症治療の中心となっている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

西香川病院は、平成12年に国から旧高瀬町に旧国立療養所の移管を受け、観音寺市・三豊郡医師会に管理運営を委託していたが、平成18年度から三豊・観音寺市医師会との指定管理者制度を導入し、平成21年度に代利制から利用料金制に変更した。経常収支比率、医業収支比率ともに、類似病院と比較して高く、100%を超えて黒字となっており、これに伴い累積欠損比率も当該数値なしという結果となっている。高齢者に対する慢性期の医療や介護、リハビリテーションに重点を置いているため、入院患者単価は類似病院平均を下回っているが、病床利用率は、毎年ほぼ100%を維持し、外来患者単価については平均より高い状況である。また、職員給与費対医業収益率については類似病院を上回っており上昇傾向となっているが、材料費を抑えるなど、支出削減等の経営努力により収益性を確保出来ている状況にある。

2. 老朽化の状況について

建物は、建築後30年以上経過し老朽化が進行しており、患者の療養環境の整備が必要な状況である。また、医療機器等についても、機械備品減価償却率が90%を超えており、医療水準の維持・向上を図るため、耐用年数を大幅に過ぎた機器の更新等の整備が必要となってきている。将来にわたって病院事業を継続していくためには、施設設備の再整備のための中長期的な投資・財政計画の検討が必要である。

全体総括

現在、収支は黒字で経営自体に問題はない。しかし、固定資産投資が行われていない状況を考慮すると、今後、多額の施設・設備投資費用の発生が見込まれるため、病院事業全体として厳しい経営状況となるのが予想される。地域に必要な医療を提供するために、指定管理者とさらなる連携を図り、平成28年度に制定した「三豊市新公立病院改革プラン(H28-H32)」に基づき、経営の効率化、収支の効率化に取り組み、健全経営に努めていく。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成29年度決算）

香川県三豊市 永康病院

| 法適用区分 | 業種名・事業名 | 病院区分 | 類似区分 | 管理者の情報 |
|--------|---------|---------|---------------|------------|
| 当然財務 | 病院事業 | 一般病院 | 100床以上～200床未満 | 非設置 |
| 経営形態 | 診療科数 | DPC対象病院 | 特殊診療機能 ※1 | 指定病院の状況 ※2 |
| 直営 | 10 | - | ド | 救臨へ輪 |
| 人口（人） | 建物面積（㎡） | 不採算地区病院 | 看護配置 | |
| 66,642 | 8,843 | 非該当 | 1.3 : 1 | |

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

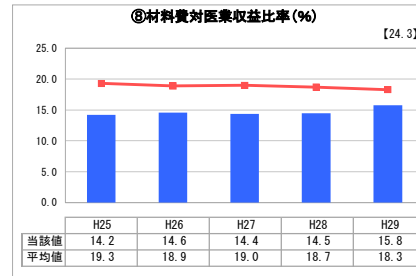
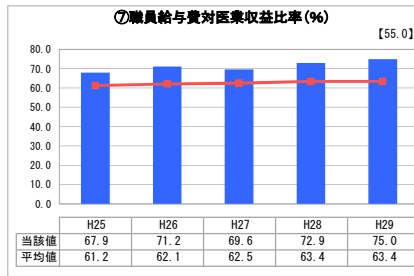
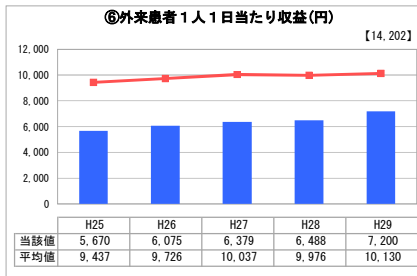
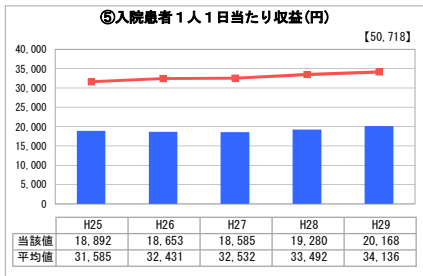
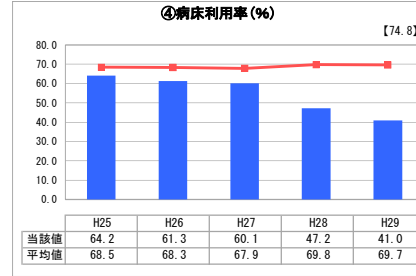
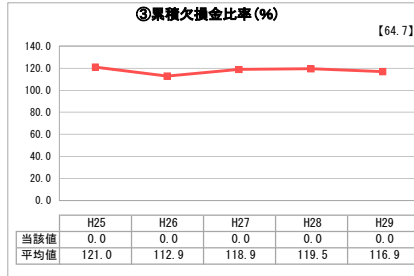
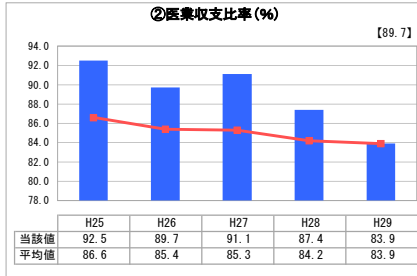
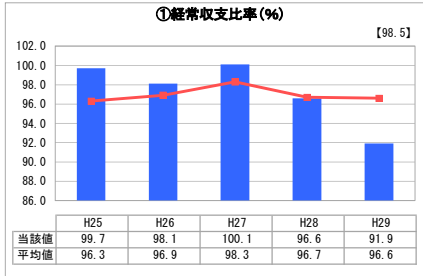
| 許可病床（一般） | 許可病床（療養） | 許可病床（結核） |
|----------|-----------|-------------|
| 92 | 48 | - |
| 許可病床（精神） | 許可病床（感染症） | 許可病床（合計） |
| 59 | - | 199 |
| 稼働病床（一般） | 稼働病床（療養） | 稼働病床（一般+療養） |
| 43 | 28 | 71 |

グラフ凡例

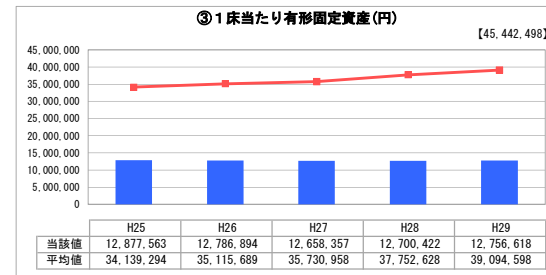
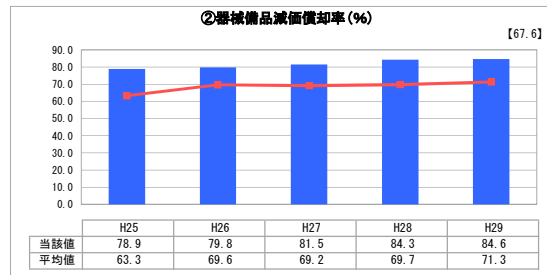
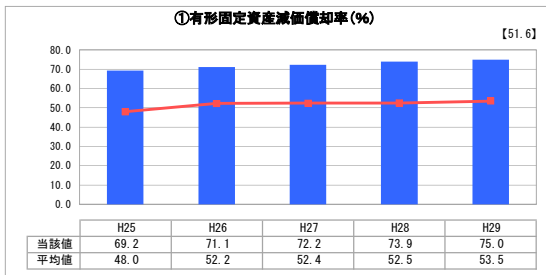
- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）

【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



I 地域において担っている役割

地域に必要な機能を提供していくとともに、第2次、第3次救急病院と第1次医療を担う地域の医療機関との中間的な役割を果たす。具体的には次のとおりである

- ①初期から2次までの救急医療機能
- ②高度急性期医療機関での急性期治療を脱した患者へ回復期および維持期の医療を提供する機能
- ③在宅での医療・福祉を他施設との連携によって推進する地域包括ケアシステムの中心的役割
- ④精神科医療においては、三豊保健医療圏での中核的な機能
- ⑤公立診療所や高しよなどへき地医療に対する支援
- ⑥地域の医療従事者への研修

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

累積欠損金は発生していない。昨年引続き経常収支比率が100%を下回っている。理由として入院患者の減少に伴う料金収入の減少、人件費・経費等の医療費用の増加にあるため今後も単年度収支が赤字になることが予想される。改善策として、地域の動向や診療報酬などの制度の動向などを考慮し、診療環境を整備し、診療内容を充実させ、診療単価を上げていく必要がある。また、繰入金について病院事業の実態に即した繰出制度の趣旨に応じ繰入金に見直しを行いながら、全体の経営の改善に取り組みが必要である。病床利用率についても、毎年減少が続いている。今後は香川県地域医療構想を基に市立病院に求められる医療ニーズ及び病床の有効利用に対応した編成となるよう努力を行う。入院患者・外来患者の1人1日当たりの収益については、毎年類似病院より大きく下回っており早急な対応が必要である。外売については、基本的なことが外売診療単価を増加させる。入院については、入院診療単価を高めるために在院日数の短縮を図り、医師・看護師を含めた収益増加に向けた努力をしていく。職員給与費対医療収益比率については、職員の年齢の高齢化とともに高くなってきており、今後更年相向にある。材料費対医療収益比率については、類似病院を下回っているが、引き続き削減できる費用は削減していきたい。

2. 老朽化の状況について

耐震基準を満たしていない老朽化の著しい建物の建替えを検討はするものの、長年にわたり放置されてきた。それに併せて設備投資を行わず医療機械備品等の更新を必要最小限に控えてきた。そのため、有形固定資産減価償却率及び機械備品減価償却率についてはともに数値が高く、機械備品はかなり老朽化が進んでおり、中には耐用年数を超えているものもある。そのため今後更新等をするにあたって、多大な投資が必要になってくると思われる。

全体総括

公立病院として、地域に密着し市民の健康と福祉に貢献し、安心して医療を受けられる環境を維持していくことが求められている。将来的な病院の建替えを検討していく中で、できることから業務改善に取り組み、新病院開院後において安定した経営を固めるよう職員一丸となって経営改善に取り組んでいく必要がある。そのためにも早期に電子カルテを導入し、業務の効率化や地域（国、県、他医療機関）と連携し診療報酬の増収を図れるよう努力していく必要があると考えている。

最後に新立病院改革プランについて、すでにプランは策定しているが、香川県地域医療構想を踏まえ、西部構想区域内の機能分化と連携促進に向けての医療提供等ができるよう、また、現状を踏まえ、その内容について年1回程度、点検・評価を行い、必要に応じて新改革プランの見直しを行っていきたい。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。